JAPAN SOCIETY OF BREAST HEALTH
Annual　Report

乳房健康研究会　アニュアルレポート 2016
乳がん罹患者10万人時代に向けて

CONTENTS

はじめに

2015活動：乳がん罹患者10万人時代に向けて

1. コミュニケーション強化と的確な情報提供

2. 関連NPO団体や企業との連携“ピンクリボンネットワーク”

乳房健康研究会のあゆみ2000～2014年

乳房健康研究会を支援するプログラム

認定NPO法人 乳房健康研究会

2016年4月

はじめに

いま日本女性の12人に一人が乳がんにかかるといわれ、亡くなる方は増え続けています。乳がんは予防することはできませんが、早期発見であれば90%以上が治癒します。早期発見は知識さえあれば可能です。自己検診を行い、精度の高いマンモグラフィ検診などの画像診断が受けられると、より早期発見率は高まります。

2000年春、私たちは乳がん早期発見による死亡数低下を願い、乳房健康研究会を組織しました。セミナー、出版、ピンクリボンバッジ運動、ウオーク＆ラン大会など社会性の高い事業活動を行っており、2003年2月、日本の乳がん啓発団体で初めて特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、2011年4月には認定NPO法人の認証を受けるに至りました。

乳がん検診は1人1人が向き合う時代へ

日本のピンクリボン運動の高まりとともに、ピンクリボン運動やマンモグラフィについては広く知られるようになりましたが、検診は「知っているけれど、受けていない」人が多いのが現状です。伸び悩む乳がん検診受診率アップのためには、マスメディアやイベントなどを通しての社会全体への情報提供だけではなく、身近な人や友人・知人が個人に検診をすすめ、背中を押してあげる最後のひと押しが重要となってきます。そこで2013年秋、当会は、まわりの人に検診をすすめ、乳がんにやさしい社会を目指す「人」をたくさんつくることを目的に、「ピンクリボンアドバイザー制度」を創設。2014年はピンクリボンアドバイザーが活動をスタートし、乳がん検診を広める「友だちアクション」を全国各地で推進しました。

当会設立15年目となる2015年は、15周年記念事業として、「PINK RIBBON CONFERENCE2015」を開催。乳がん罹患者は2020年には年間10万人になるといわれる中、これから私たち一人ひとりは何をすべきか、“乳がん罹患者10万人時代のピンクリボンアクション”について考えました。その動きは、2016年に向けてさらに活発に、大きく広がっています。

人と人のつながりを大切に乳がん検診を推進するという、これまでより一歩踏み込んだ、日本ならではの取り組みに、多くの方が賛同し啓発の輪が広がっています。ピンクリボン運動の新たなステージに、一層のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人 乳房健康研究会

2015活動トピックス

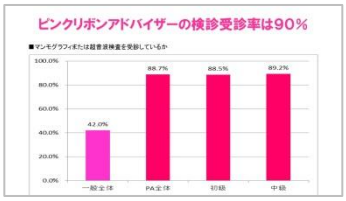
乳がん罹患者１０万人時代に向けて

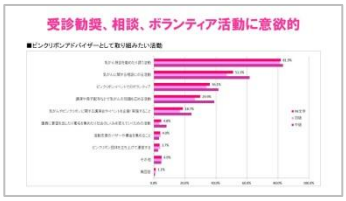
乳がんにかかる人は、2020年には年間10万人になるといわれている。乳がんによる悲しみを減らすため、早期発見・治療をさらに推進するとともに、社会復帰、治療後の生活サポートなど、フォロー体制の整備も大きな課題となる。毎年、新たに10万人に乳がんが見つかる時代を迎え、私たち一人ひとりは何をすべきか。ピンクリボン運動は、社会は、どうあるべきか。
乳房健康研究会設立15年目となる2015年は、「PINK RIBBON CONFERENCE 2015」を開催。多面的な視点から2020年に向けてやるべきことを考えた。

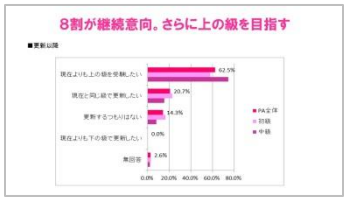
1. PINK RIBBON CONFERENCE 2015

2. ピンクリボンアドバイザー活動の活性化

3. ピンクリボン調査







4. 東日本大震災で被災した女性の健康支援　ピンクリボンでつなぐ絆プロジェクト

1. PINK RIBBON CONFERENCE 2015

PINK RIBBON CONFERENCE 2015
～乳がん罹患者10万人時代のピンクリボンアクション～

毎年、新たに10万人に乳がんが見つかる時代を迎え、私たち一人ひとりは何をすべきか。ピンクリボン運動は、社会は、どうあるべきか。
乳房健康研究会設立15年目となる2015年は、15周年記念事業として、乳がん月間に先立つ9月に「PINK RIBBON CONFERENCE 2015」を開催。6月に実施した最新のピンクリボン調査をまじえながら、地域、企業、啓発団体、患者、女性の生き方など、多面的な視点から2020年に向けてやるべきことを考えた。

■名称 ： 認定NPO法人乳房健康研究会15周年記念事業
PINK RIBBON CONFERENCE 2015
～乳がん罹患者10万人時代のピンクリボンアクション～

■日時 ： 2015年9月13日(日) 10:00～16:00

■会場 ： ステーションコンファレンス東京 6F

■参加人数 ： 300人 参加費 2,000円

■対象 ： ピンクリボンアドバイザー、ピンクリボン企業・団体、自治体担当者、メディア、一般市民 など

■主催 ： 認定NPO法人乳房健康研究会

■協賛 ： 花王グループ(花王(株) (株)カネボウ化粧品)、一般財団法人ミュゼ財団、(株)アートネイチャー

【1】基調講演「乳がん最新情報」

会の冒頭に専門家から、検診、治療、生活についての最新情報についてお伝えした。

<座長：福田護>
①「乳がん検診」 遠藤登喜子(NPO法人I日本乳がん検診精度管理中央機構理事長)
②「乳がん治療」 土井卓子(湘南記念病院かまくら乳がんセンター長)
③「乳がん治療と生活」金澤麻衣子(東北大学病院看護部乳がん看護認定看護師)

＊講演内容を編集し、2016年春よりWebセミナーとして有料配信。

【２】乳がん罹患者10万人時代のピンクリボンアクション

地域、企業、啓発団体、患者など、さまざまな立場からピンクリボン活動を報告。多面的な視点から2020年に向けてやるべきことを考えた。
＊講演内容の一部を編集し、2016年春よりWebセミナーとして有料配信。

①三重乳がん検診ネットワークによる受診率アップの取り組み
竹田寛(三重乳がん検診ネットワーク理事長)
②企業の社会貢献とピンクリボン活動
髙内美和(花王(株))コーポレートコミュニケーション部門　社会貢献室長)
③乳がんにやさしい社会に向けての人的ネットワークづくり
岡山慶子(朝日エルグループ　会長)
④届けたい、乳がん患者の声
栗橋登志、藤原　緑(乳がん体験者・ピンクリボンアドバイザー)
⑤　ここにあなたの望む乳がん検診があります。
小泉美都枝(川崎市立多摩病院画像診断部)

【３】トークセッション

社会や女性の生き方が変化する中、これから求められる女性像について、ピンクリボンを通して考えた。

<司会：福田護>　　<パネラー>　坂東眞理子さん　　藤森香衣さん　　島田菜穂子

【展示・ポスター展示】

展示・ポスターセッションでは、各地のピンクリボン団体や企業の取り組みを紹介。メイクアップセミナーも好評だった。

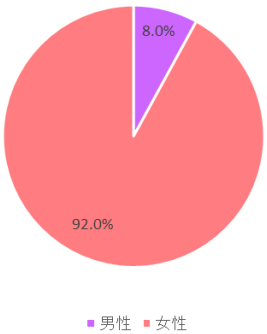
2. ピンクリボンアドバイザー活動の活性化

第4回認定試験により、ピンクリボンアドバイザーは約6,000名超

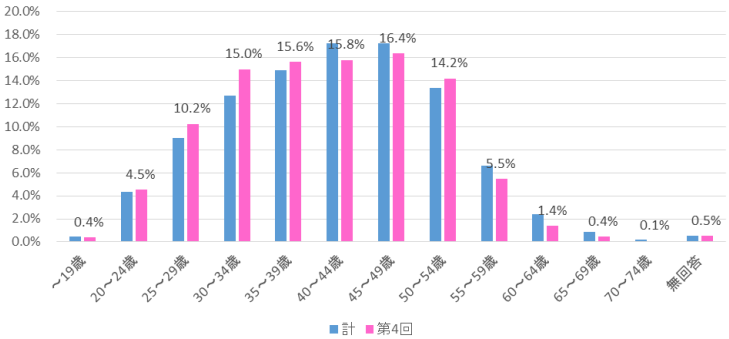
12月に第4回試験を実施。【初級】は、申込1,592名、合格者1,367名。【中級】は、申込506名、合格者392名。2015年はこのほかにサテライト試験【初級】を企業2社、藤沢市・藤沢市保健医療センター、チームマンモ（島根県）で行う。
2016年1月現在のピンクリボンアドバイザーは、【初級】6,153名、【中級】1,227名となった。

【初級合格者データ】

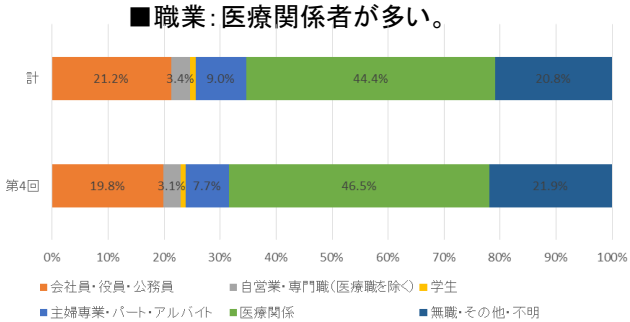
■男女比：女性が9割以上を占める



■年齢：平均年齢41.0歳（第4回）

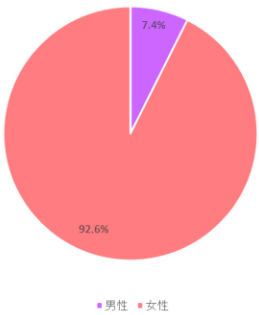


■職業：医療関係者が多い。

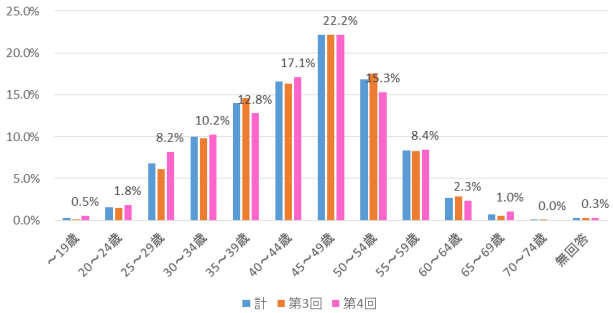


【中級合格者データ】

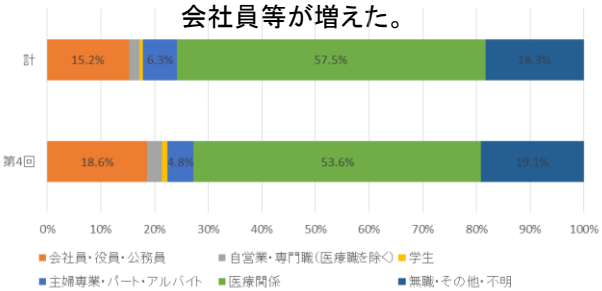
■男女比



■年齢：平均年齢43.0歳、初級より高め



■職業：前回に比べ医療関係の割合が減り、会社員等が増えた。



■4か所でサテライト試験開催

2015年は上記のほかにサテライト試験【初級】を企業2社、藤沢市・藤沢市保健医療センター、チームマンモ（島根県）で行った。藤沢と島根では、地域のピンクリボンイベントと合わせて試験を実施した。

試験終了後にはご当地ゆるきゃらが登場

各地でワークショップイベントを開催

■ワークショップキャラバン

15周年記念事業として、ピンクリボンアドバイザーワークショップキャラバンをスタート。グループワークやロールプレイを通じて、活動に役立つ実践的スキルを習得するもので、中級試験開催地で順次実施。自己検診、ピンクリボンマップ作成、企画書作成、患者サポートなどのメニューから、各地域の要望を考慮して内容を決定する。
第１回は、大阪で開催。乳がんの基礎を学ぶセミナーと自己検診のやり方を学ぶワークショップの2本立てプログラム。セミナーでは乳がんや乳がん検診について基本から学ぶ。ワークショップでは、ピンクリボンアドバイザーの活動の中でも要望の多い自己検診指導について、実技はもちろん、その役割や指導上の留意点も含めて、実践を通して身につけた。
＊2016年予定：福岡（2月）、東京（5月）、札幌（9月）、2017年予定：広島（2月）、仙台（9月）、名古屋（11月）

第１回ワークショップキャラバン
●日時：11月14日（土）10:00-17:00
●場所：大阪府男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）
●主催：認定NPO法人乳房健康研究会、共催：NPO法人ピンクリボン大阪

【セミナー】「乳がんをもっと知ろう～ピンクリボンアドバイザーって何？」
講師：認定NPO法人乳房健康研究会理事長　聖マリアンナ医科大学B&Iセンター院長　福田 護
参加費：無料　　参加者：一般・ピンクリボンアドバイザー　150人

【ワークショップ】「自己検診のやり方・勧め方」　　ファシリテーター：岩嶋　壽子
参加費：3,000円　　参加者：ピンクリボンアドバイザー 40人

■第2回マンモグラフィ工場見学＆活動実践研修会

1泊2日で、乳がん検診について学び、ピンクリボンアドバイザー同士の交流を図るピンクリボン研修会を開催。昨年に続き第2回となるこの研修会では、昨年同様、東洋一の医療機器工場であり、マンモグラフィの国産メーカー東芝メディカルシステムズ（栃木県大田原市）の工場見学に始まり、二日間の内容の濃いワークショップを通じてピンクリボンアドバイザーの活動の幅を広げる、充実したものとなった。ピンクリボンアドバイザー26名、講師・スタッフ6名、合計32名が参加した。
この研修会から様々なアイディアやプロジェクトが生まれ、各地で実践されつつある。

●期日：6月12日（金）～13日（土）＜1泊2日＞
●協力：㈱東芝、東芝メディカルシステムズ㈱

■ピンクリボンセミナー in Mie

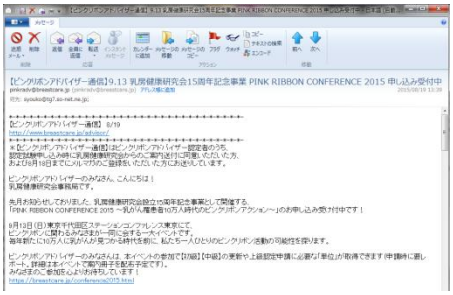
三重県内、近隣の府県在住のピンクリボンアドバイザーが集うイベントを、三重乳がん検診ネットワークと当会が共催で開催。アドバイザーとして既に活動中、または受験を検討中の方が集まり、立場を超えた情報交換や共有を行った。

●日時：2015年10月24日（土）13：00~16：00
●場所：三重大学講堂（三翠ホール）小ホール
●テーマ：アドバイザーとしてなすべきこと
●参加費：無料（電話、FAX、e-mailによる事前申し込み）
●主催：乳房健康研究会・三重乳がん検診ネットワーク共催

ピンクリボンアドバイザー専用サイトをリニューアル

活動に役立つきめ細かな情報提供を行うため、ホームページ内のピンクリボンアドバイザー専用サイトの充実を図る。
タレント・北斗晶さんの乳がん公表に関するQ&Aなどのタイムリーな情報を提供したり、各地のイベントやボランティア情報を紹介し参加を呼び掛ける。活動後はレポートをよせてもらいサイトに掲載し、活動をシェアする仕組み。
サイトへ誘うため、定期的なメールマガジンを送付している。

■ピンクリボンアドバイザー専用サイトの充実
・タイムリーなトピックス記事
・イベントや企業などのピンクリボンキャンペーン告知
・ボランティア募集告知
・ピンクリボンアドバイザーの活動報告
・理事による連載記事　など



■メールマガジン発行
・定例メールマガジン…毎月19日に全員へ送付
・エリア/職種限定メール…適宜、対象者へ送付

各地でピンクリボンアドバイザーが活躍

現在、数多くのピンクリボアドバイザーが各地で活発に啓発活動に取り組んでいる。また、自治体や企業のピンクリボンイベントをサポートし、セミナーの講師を務めたり、自己検診などの指導も行う。
地域のピンクリボン活動のリーダーとして着々とネットワークを広げている。

【初級】【中級】更新審査/【上級】認定の概要を決定

第1回認定試験受験者が2016年に認定から3年目となり、更新時期を迎える。それに先立ち、2015年9月にピンクリボンアドバイザー【初級】【中級】更新審査/【上級】認定の内容を発表した。
学び、活動を促進する4分類のカリキュラムを設け、スキルアップやモチベーションアップができるとともに、楽しく学び合いながらピンクリボンアドバイザーの活動を継続できる仕組みを構築している。

●【初級】【中級】更新審査
　それぞれ認定期間内に、更新に必要な単位を取得し、申請。
　合格者には、結果通知とともに認定カードを送付。
●【上級】認定
　中級認定期間内に、所定の取得したうえで、上級認定研修会を修了。
　修了時に上級認定証を発行する。

【取得単位一覧】

分類	科目	受講料	単位	【初級】更新 更新審査料 3,000 円 必須単位	【中級】更新 更新審査料 9,000 円 必須単位	【上級】認定 認定研修会 ・審査料 30,000 円 必須単位	備考
Ⅰ類 Web セミナー	①乳がんはなぜできる	2,000 円 （全講座受講可）	1	いずれか1単位	いずれか1単位	●	
	②増え続ける乳がん		1			●	
	③大切な乳がん検診		1			●	
	④乳がんを治す		1			●	
	⑤乳がんと生きる		1			●	
	⑥ピンクリボン運動		1			●	
Ⅱ類 ワークショップ	①自己検診	3,000 円	1			いずれか1単位 ※2	※1：内容により受講料が異なります ※2：取得が難しい場合は、Ⅳ類を2単位取得
	②ピンクリボンマップ作成	3,000 円	1				
	③企画書作成	3,000 円	1				
	④患者サポート	3,000 円	1				
	⑤企業見学研修会	※1	1				
Ⅲ類 活動参加	①イベント参加	※3	1		いずれか1単位	●	※3：イベント参加費用は個人負担
	②ボランティア		1			●	
Ⅳ類 啓発・支援活動	①個人勧奨		1		いずれか1単位	いずれか1単位	
	②患者サポート		1				
	③啓発ツール作成		1				
	④イベント企画		1				
（2017 年～） アニュアル ミーティング	■教育セミナー	2,000 円	・受講により Ⅰ 類に相当する単位が取得できます				
	■活動発表	3,000 円 （軽食付）	・受講とレポート審査により、Ⅲ類①1単位が取得できます。 ・活動発表により、上記に加えてⅣ類1単位が取得できます。				

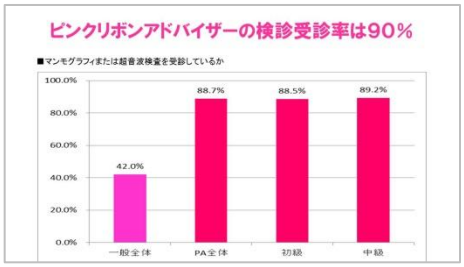
※金額はすべて消費税別となります。
※カリキュラムの詳細は、それぞれのページをご参照ください。
※単位取得ができない場合、単位取得で更新する代わりに、再度、認定試験を受験し、合格することにより更新することができます。詳しくは P4 をご参照ください。

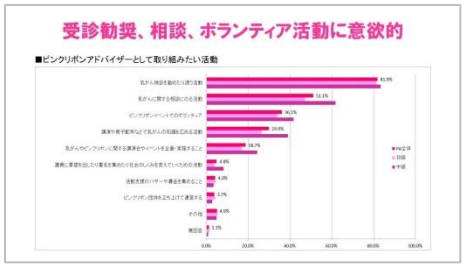
3. ピンクリボン調査

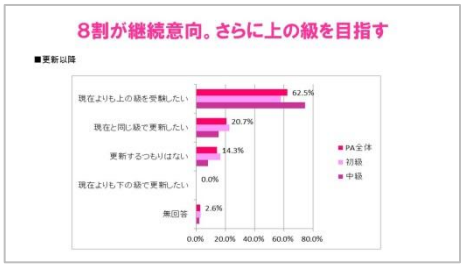
2003年から2年に1度の定例調査をおこない、一般女性の乳がん検診意識・行動の変化を探っている。今回は「自分のカラダCheck-Up」をコンセプトに、自分のカラダへの意識などの質問を追加した。
また、今回はピンクリボンアドバイザー対象の調査も実施し、その結果を島田菜穂子副理事長が乳がん検診学会で発表。

<一般女性意識行動調査>
- ■調査時期 ：2015年6月
- ■対象：マクロミルモニターより20歳～69歳の女性を人口比率に合わせて割り付け
- ■方法：インターネット調査

<ピンクリボンアドバイザー 意識行動調査>
- ■調査時期 ：2015年7～8月
- ■対象： 全ピンクリボンアドバイザーのうち、無作為に1/3の1450名を抽出
- ■方法： 郵送アンケート調査
- ■有効回答：546票 （回収率；37．7%）







4. 東日本大震災で被災した女性の健康支援 ピンクリボンでつなぐ絆プロジェクト

2011年、未曾有の大災害となった東日本大震災で被災された女性たちがさらに乳がんで悲しまないために、乳がん検診受診を支援するプロジェクトを展開。被災地のことを忘れないため、また被災地の女性たちの健康を思いやることを通して自分自身の健康を大切にしてほしいという願いを込めて継続してきたが、2015年、いわてピンクリボンの会との協働でプロジェクトを締めくくるイベントを開催した。

自己管理の重要性をテーマに乳がん情報を発信

日本で初めてブレストケアウオーク＆ランを開催した乳房健康研究会。医療従事者と一般女性のコミュニケーション強化を図ることにより、正しい情報を伝達することを目的として、多岐にわたるイベントを開催・協力している。
ホームページでは、乳がんの的確な情報を提供。さまざまな媒体からの情報提供の依頼や取材が増えており、乳房健康研究会の情報が信頼されていることがうかがえる。各種啓発ツールも多方面で活用されている。

第14回ミニウオーク＆ラン フォー ブレストケア ピンクリボンウオーク2015

■日時：2015年4月5日（日）
■場所：日比谷公園

乳がんについて考えるきっかけになってほしい…。そんな思いからスタートした「ピンクリボンウオーク」。2015年は、「自分のカラダCheck-Up」をコンセプトに開催。運営に関わる様々な場面で、ピンクリボンアドバイザーが多数参加した。

残念ながら悪天候の中での開催となったが、参加者たちは、ステージで行われたブレストケアトークに傘をさしながらも真剣に耳を傾けていた。
ウオーキングに出かける前の準備体操は、2014年に開発した、楽しく踊りながら自己検診を学ぶ『ピンクリボン体操第1』。DVDにも出演している仲良し3姉妹『Pink Ribbons』の踊りに合わせて、小さいお子様から年配の方まで笑顔で楽しみながら体を動かしている姿がとても印象的であった。

ウオークのコースは、銀座や丸の内をめぐる2km、皇居をぐるりと回る5km、皇居外苑から千代田区をめぐるロングな10kmの3つ。ウオークコースには悪天候を吹き飛ばすかのように桜が咲き、参加者は桜を楽しみながらウオークに参加していた。参加者はそれぞれピンクのものを身につけた方が多く、ピンクリボン運動に対しての参加意識の高さを実感することができた。

また、今年もたくさんのボランティアの方が集まり、前日のお土産アッセンブリ作業、ウオークカードの紐通しにも協力いただいた。

昨年に続き今年も、ピンクリボンアドバイザーがボランティアで運営を行う「ピンクリボンカフェ／教えて自己検診！」のブースを設置。あったかいドリンクの無料提供をしながら、参加者とお話しをたり、自己検診のやり方を教えるといった、とても賑わいのあるブースであった。

ウオーク参加者、ボランティア共に、男性、女性幅広い年齢層の方々が集まり、乳がんに対する知識がたくさんの方々に広まっていると感じた。生憎の天気の中も笑顔が溢れる、とても温かい大会となった。

大会の模様は、夕方のテレビ東京　TXNニュースで紹介された。

信頼される乳がん情報、充実した啓発ツール

乳がんの的確情報の提供とともに、今年取り組んださまざまな活動を紹介しているホームページ。設備のととのった検査施設などの情報を更新した。

【さまざまな啓発ツール】

乳がんの啓発ツールやチャリティグッズ（書籍、パンフレット、シャワーカード、DVD、切手、ピンクリボンバッジなど）を作成しホームページで販売しており、各方面で活用されている。最近は、さまざまな企業がオリジナルのピンクリボン啓発ツール制作をおこなっている。
2015年は乳房健康研究会の歩みを中心に日本のピンクリボン運動の成り立ちと活動推進上の工夫点をまとめた『ピンクリボン咲いた！認知率95%のひみつ』を発行した。
雑誌、新聞、テレビ、インターネットなどのさまざまな媒体からの情報提供の依頼や取材が増えており、乳房健康研究会の情報が信頼されていることがうかがえる。

■啓発リーフレット

■書籍

■シャワーカード

学会・研究会へ出展し、ツールを紹介

専門家に乳がん早期発見の大切さを伝えることにより、それぞれの専門家に乳がん啓発活動の一端を担ってもらうため、学会・研究会や各地の市民公開講座等へ出展。講師の派遣、乳がん啓発ブースの設置、啓発ツール紹介、チャリティグッズの販売をおこなう。

出展	会期	会場
日本乳癌学会	7月2～3日	東京国フォーラム
日本乳癌検診学会	10月30、31日	つくば国際会議場

日本乳癌学会学術総会会場にて。
ピンクリボンアドバイザーのみなさんがボランティアで参加

ピンクリボンの裾野を広げる

正しい乳がん情報を広く普及するために乳がん啓発活動に関わるNPOや各種団体、企業との連携事業を展開。

各地のピンクリボン活動をサポート

全国各地のピンクリボンイベントに協力し、イベント共催、講師の派遣、ブース出展、啓発パネル貸し出しなどを精力的に行う。

時期	イベント
1月	トッパングループ健康保険組合　朝霞診療所
4月	桑名西医療センター
	つくばピンクリボンフェスティバル2015　/　NPO法人つくばピンクリボンの会
5月	埼玉西武ライオンズ　HAPPY　MOTHERS DAY
	大丸松坂屋　母の日キャンペーン
	ピンクリボン　de　カープ　/　ブレストケア　ピンクリボンキャンペーンin広島実行委員会
6月	米子ピンクリボンフェスタ2015
9月	墨田区がんパネル展
10月	ピンクリボンフェスティバル（東京、神戸、仙台）
	各地のスマイルウォーク・シンポジウム/日本対がん協会他
	ピンクリボン全国大会＆東山参道周辺スタンプラリー（京都）
	ピンクリボンin東京
	レントゲン週間「放射線展」（茨城県診療放射線技師会）
	ピンクリボン in 郡山
	ピンクリボン in 戸田
11月	明治安田パイレーツ
	ピンクリボンフェスティバル　関西セミナー
	関西電力病院
12月	NIPPON女性からだ会議

ピンクリボンスマイルウオーク会場で、山内英子理事とピンクリボンアドバイザー。

東京都主催の「ピンクリボン　in 東京」ではドクタートークを担当。ピンクリボンアドバイザーもボランティアとして参加。

企業とのタイアップ

協賛や直接的な寄付に加えて、広報・販売促進活動の中で社会貢献活動を行う「コーズ・リレイティッド・マーケティング」による支援も増加している。乳房健康研究会は主としてコンテンツを提供。企業の告知力・コミュニケーション力により、正しい乳がん情報が広く普及していく。

企業	内容
アスクル	オリジナル紙コップの売り上げの一部を寄付
川辺	ママバッグの売り上げの一部を寄付
花王グループ	店頭での啓発活動。浴室に貼る自己検診のやり方シートを開発
カネボウ化粧品	特別デザインのインプレスIC ソフニングオイルの売り上げの一部を寄付
クロスカンパニー	ギフトショップMaison de FLEURの対象商品の売り上げの一部を寄付
佐藤食品工業	鏡餅、切り餅の売り上げの一部を寄付
シグマスタッフ	派遣社員へ乳がん啓発。登録人数に応じて寄付
ジャパンビバレッジ	自動販売機の売り上げの一部を寄付
スリーエムヘルスケア	聴診器等の売上の一部を寄付
3M	アマゾンでの日用品の売り上げの一部を寄付
ソラーレ　ホテルズ　アンド　リゾーツ	チサンホテルの宿泊費の一部を寄附
東京コカ・コーラボトリング	自動販売機の売り上げの一部を寄付
日本ホールマーク	母の日カードの売り上げの一部を寄付
鳴海製陶	フェリシータシリーズの売り上げの一部を寄付
ヌーヴ・エイ	店頭での募金による寄付
ハクスバーナー・ゼノア	ピンクのチェンソーの売り上げの一部を寄付
三越伊勢丹	ピンクリボンバッジ運動による寄付
ユナイテッドアローズ	対象商品やオリジナルピンクリボングッズの売り上げ一部、リサイクルキャンペーンによる売却費を寄付
ワコール	ネット上のピンクリボン検定の回答1回につき3円の寄付
ほか多数	

乳房健康研究会のあゆみ

2000年

●5月　乳房健康研究会発足

●9月　第1回セミナー「もっと乳がんを知ろう」開催（東京・プラザエフ）

■乳房健康研究会設立メンバー
２０００年春、日本女性の乳がんによる死亡数低下を願い、４人の医師が集まり発足した。

野末悦子
コスモス女性クリニック
院長

霞　富士雄
順天堂大学医学部
附属順天堂医院
乳腺センター長

福田　護
聖マリアンナ医科大学
ブレスト＆イメージング
センター院長

島田菜穂子
ピンクリボンブレスト
ケアクリニック表参道
院長

2001年

● ３月　『20歳を過ぎたらブレストケア』出版　プレスセミナー開催（東京）

● ７月　乳癌最新情報カンファランス会場にてピンクリボンバッジ運動スタート

● ９月　第2回セミナー「乳がん早期発見のための取り組み～女性医療と乳がん～」開催（東京・プラザエフ）

●全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ピンクリボンバッジ運動
アメリカで乳がん啓発のシンボルマークとして広く知られているピンクリボン。このバッジを多くの方々につけていただくことで、乳がんの早期発見をよびかけている。

■出版、啓発ツール制作
『20歳を過ぎたらブレストケア』を出版以降、マンモグラフィの特徴や撮影方法などをわかりやすくまとめた「マンモグラフィQ&A」、乳がんの基礎知識をまとめた「乳がんQ&A」などの啓発ツールを制作し、さまざまなルートで活用していただいている。

2002年

● ３月　第1回ミニウオーク＆ラン　フォー　ブレストケア開催（東京・国営昭和記念公園）

● ９月　第1回ウオーク　フォー　ブレストケア開催（東京・お台場）

● ９月　「マンモグラフィQ&A」制作

● 12月　東京ミレナリオ沿道にて「ピンクリボンプラザ」開設

● 10月～翌年1月　乳がん検診のバリア調査(一般女性)

● 11月　乳がん検診のバリア調査（全国自治体）

●全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ウオーク＆ランの開催
一般女性、乳がん経験者、男性も子どもも参加できるウオークやラン。アメリカで広くおこなわれているこのような乳がんイベントを日本で初めて開催した。サブイベントとしてマンモグラフィ検診や乳房健康相談、ブレストケアトークなどをおこない、楽しい中にも乳がんの正しい知識を持っていただけるような内容で、医療従事者と一般女性のコミュニケーションを深めている。

2003年

● ２月　内閣府より特定非営利活動法人（NPO法人）認証

● ３月　第2回ミニウオーク＆ラン　フォー　ブレストケア　開催（東京・国営昭和記念公園）

● ４月　第3回セミナー「なぜ検診に行かないの？乳がん検診のバリアをなくそう」開催（東京・ヤマハホール）

● ５月　ウオークフォー ブレストケア 2003 大阪 開催（大阪・大阪城公園）

● ８月　「乳がんQ&A」制作

● ９月　ピンクリボンウオーク2003開催（東京・代々木公園）

● 10月　朝日新聞社主催「ピンクリボンフェスティバル」（東京・六本木ヒルズ）への支援

● 11月　第13回日本乳癌検診学会（群馬）にて乳がんのバリア調査報告ならびにピンクリボン運動出展

● 11月　米国の乳がん啓発団体「スーザン・G・コーメン・ブレストキャンサー・ファンデーション」とタイアップしてプレスセミナーを開催

●全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■乳がん検診のバリア調査
乳がんの基礎的な資料整備のため、企業、行政、団体のご協力をいただきながら、乳がんに関する調査の設計、実施、データの公表をおこなっている。
2002～3年には、乳がん検診受診率がなぜ低いのかを探る「乳がん検診のバリア調査」を実施。全国３，２４７自治体と一般女性（東京、愛媛）への調査をおこない、自治体の乳がん検診の考え方や実態や女性たちの検診意識を明確化した。この調査はたびたびメディアでも取り上げられている。

2004年

● 2月 『すべての女性にブレストケア』出版

● 3月 第3回ミニウオーク＆ラン フォー ブレストケア 開催（東京都･国営昭和記念公園）

● 8月 三重県乳がんプロジェクトの一環の県民公開講座を支援

● 9月 マンモグラフィ講習会を開催（東京）

● 10月 関西国際空港10周年記念ピンクリボンウオーク関空2004 開催（大阪・関西国際空港）

● 10月 「チャートでチェック！乳がん検診 私はどこに行ったらいいの？」「ブレストケアと乳がん検診についてお話しましょう」作成

●全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■信頼できる乳がん検診情報の提供
活動開始から5年目、NPO法人化2年目の2004年はさらに戦略的な活動を本格化。「信頼できる乳がん検診情報の提供」をテーマに、乳がん検診受診率アップのためのさまざまな活動を展開した。制作物では「すべての女性にブレストケア」を出版ほか、検診施設の選び方のチェックチャートを作成しホームページでも紹介。

ピンクリボンウオーク関空で
日本初!ピンクリボン人文字

乳がん検診が初めての人への
ナビゲーションとなる１冊

2005年

● 1月 マンモグラフィ講習会を開催（三重、久留米）

● 3月 第4回ミニウオーク＆ラン フォー ブレストケア 開催（東京都･国営昭和記念公園）

●6～7月「乳がん検診は今」調査実施（一般女性、都道府県、自治体、健保組合対象）

● 8月、9月 三重県乳がんプロジェクトの一環の市民公開講座（四日市）を共催

● 9月 プレスセミナーを開催、「乳がん検診は今」調査結果発表（東京）

● 11月 日本乳癌検診学会（京都）にて「乳がん検診は今」調査結果発表

● 11月 市民公開講座（京都）にて「乳がん検診は今」調査結果発表

● 12月 マンモグラフィ講習会を開催（東京）

●全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■「乳がん検診は今」調査
2002～3年の「乳がん検診のバリア調査」の時点から、わが国の乳がん検診をとりまく状況は大きく様変わりした。今日の状況と課題を把握する目的で「乳がん検診は今」プロジェクトを立ち上げ、日本の乳がん検診を網羅する4つの調査を実施した。

2006年

● 3月 第5回ミニウオーク＆ラン フォー ブレストケア 開催（東京・潮風公園）

● 4月 ITEM（医学放射線学会・放射線技術学会）市民公開講座（横浜）支援

● 5･6月 マンモグラフィ講習会を開催（鹿児島）

● 6～11月ノバルティス乳がん検診キャラバン（北海道、宮城、東京、愛知、大阪、福岡）

● 9月・11月・翌年1月 乳がん検診受診率向上実践セミナー開催（東京）

● 10月 ピンクリボンハッピーチャレンジ「ランチセミナー」（センチュリーハイアット東京）

● 10月 順天堂乳腺センター市民公開講座 支援

● 11月 ピンクリボンハッピーチャレンジ「文化放送ミスDJリクエストパレード」

● 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■乳がん検診をもっと身近なものに
2005年調査を受けて、乳がん検診をもっと身近に感じてもらうための活動に新たに取り組んだ。

ノバルティス乳がん検診
キャラバン

ピンクリボン
ハッピーチャレンジ

乳がん検診受診率向上
実践セミナー

2007年

● 2月 日本乳癌画像研究会（東京）に出展

● 3月 順天堂乳腺センター市民公開講座（東京） 支援

● 6～11月ノバルティス乳がん検診キャラバン（熊本、愛媛、岡山、北海道、山形、茨城、東京）

● 9月 プレスセミナーを開催、「一般女性意識行動調査」結果発表（東京）

● 11月 乳がん検診受診率向上実践セミナー開催（大阪）

● 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■乳がん検診受診率５０％に向けて〈一般女性意識行動調査〉
２００７年は、同年６月にがん対策基本計画に「乳がん検診受診率５０％」との目標が盛り込まれたことを受け、NPO法人として実現に向けての活動の方向を探るための３度目の調査を実施した。

2008年

- 1月　マンモグラフィ講習会を開催（鹿児島）
- 3月　第7回ミニウオーク＆ラン　フォー　ブレストケア　開催（東京・日比谷公園）
- 4～11月ノバルティス乳がん検診キャラバン（長崎、広島、高知、山梨、岩手、北海道、千葉）
- 5月　hideメモリアルサミット
- 9～11月　Over　the　ピンクリボン企画
- 10月　ピンクリボンプラザ＠表参道ヒルズ、ピンクリボンプラザ＠四日市
- 10月　「Breast Cancer Global Congress」に参加
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■「ピンクリボンプラザ」開催
検診受診率アップの為には、女性の日常生活に密着した場所での啓発が大切と考え、東京・表参道ヒルズ、三重・四日市北イオンショッピングセンターで「ピンクリボンプラザ」を開催。乳がんに関する正しい知識や、一人一人に合った情報を紹介し、乳がん検診・診療への行動を促した。また、乳がん検診や診療について気軽に相談でき、生涯にわたり健康のサポート役となる乳房の主治医「ピンクリボンドクター」を見つけるヒントを提供した。

2009年

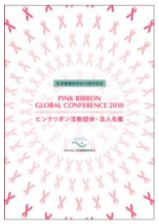
- 3月　第8回ミニウオーク＆ラン　フォー ブレストケア　開催（東京・日比谷公園）
- 4～10月　ノバルティス乳がん検診キャラバン（福岡、山口、奈良、三重、神奈川、香川、大阪、青森、秋田）
- 10月　ピンクリボンプラザ＠新宿を開催
- 10月　マンモグラフィ講習会を開催（東京）
- 11月　日本乳癌検診学会（東京）で調査結果発表
- 11月　プレスセミナーを開催
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■「ピンクリボンプラザ＠新宿」開催
検診に行きたいと思っている女性の疑問や不安を解消し、すぐに具体的に役立つ情報の提供を行うことを目的に、乳がん検診について知りたい内容をコンパクトに整理して提供した。
セミナーでは、乳がん検診の基礎についての講演と自己検診の方法とマンモグラフィの撮影方法のデモンストレーションに続き、中井美穂さんをゲストに迎えてパネルデイスカッションを行った。
　セミナーの模様は、新宿駅前の「アルタビジョン」でも放映された。

2010年

- 3月　第9回ミニウオーク＆ラン　フォー ブレストケア　開催（東京・日比谷公園）
- 5月　ノバルティス乳がん検診キャラバン（大手町、新宿）
- 5月　マンモグラフィ講習会を開催（福岡）
- 5月　日本超音波検査学会（大阪）に出展
- 6月　日本乳癌学会（札幌）に出展
- 9月　PINK RIBBON　GLOBAL CONFERENCE 2010　開催
- 9月　マンモグラフィ講習会を開催（熊本）
- 11月　日本乳癌検診学会（福岡）に出展
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■PINK RIBBON　GLOBAL CONFERENCE 2010
設立10周年を記念して、東京で日本初のピンクリボンカンファレンス開催した。米国、韓国をはじめ国内外から最先端の講師を招き、全国から集まった32のピンクリボン団体、延べ500人近い参加者とともに活発な議論が交わされた。



2011年

- 4月　すみだピンクリボン　コミュニティキャンペーン　（東京・墨田区）スタート
- 5月　認定NPO法人の認可を受ける
- 9月　日本乳癌学会（仙台）出展
- 9月　プレスセミナーを開催、「一般女性意識行動調査」結果発表（東京）
- 10月　ピンクリボンウオーク in すみだ（東京・錦糸公園）
- 10月　日本乳癌検診学会（岡山）出展
- 11月　ピンクリボンでつなぐ絆プロジェクト　in　南三陸（宮城）開催
- 11月　鹿児島撮影技師更新講習会、鹿児島読影更新講習会を開催
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■すみだピンクリボン　コミュニティキャンペーン
ピンクリボン運動を継続・高めるための新しいスタートとなる2011年は、乳がん検診の受診率を上げるという課題に向かって、行政、医療機関、各種団体、地域企業、地域メディアとともに協働する体制づくりに取り組む。

2012年

- 1月～　すみだピンクリボン　コミュニティキャンペーン　（東京・墨田区、前年より継続）
- 3月　第11回ミニウオーク＆ラン　フォー ブレストケア　開催（東京・日比谷公園）
- 6月　日本乳癌学会（熊本）出展
- 9月　ピンクリボン運動自治体担当者会議
- 9月　ピンクリボンウオーク in すみだ（東京・錦糸公園）
- 11月　日本乳癌検診学会（沖縄）出展、すみだの事例を発表
- 11月　ピンクリボンカフェ　in　郡山
- 6～7月　ピンクリボンでつなぐ絆プロジェクト　in　南三陸　乳がん検診助成
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■すみだピンクリボン　コミュニティキャンペーン
行政、医療機関、各種団体、地域企業、地域メディアとともに協働する取り組み[ピンクリボン　エリアキャンペーン]を2012年も継続展開。乳がん検診受診率向上の成功モデルを完成させるとともに、墨田区のメニューと成功事例を全国に広める活動にも取り組んだ。

2013年

- 3月　第12回ミニウオーク＆ラン　フォー ブレストケア　開催（東京・日比谷公園）
- 6月　日本乳癌学会（浜松）
- 8月　日本看護管理学会（東京）
- 9月　日本糖尿病教育・看護学会（横浜）
- 9月　プレスセミナーを開催
- 11月　ピンクリボンプラザ　in　岩手　～東北の女性の元気とキレイを応援～
- 11月　日本乳癌検診学会（東京）
- 11月　医療の質安全学会（東京）
- 12月　第1回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ピンクリボンアドバイザー制度スタート
検診を広げ、乳がんにやさしい社会を目指す「人」をたくさんつくることを目的に、2013年、「ピンクリボンアドバイザー制度」を創設。人と人のつながりを大切にしながら乳がん検診を推進する「友だちアクション」により乳がん検診啓発の輪を広げていく活動をスタートさせた。

2014年

- 3月　第13回ミニウオーク＆ラン　フォー ブレストケア　開催（東京・日比谷公園）
- 7月　第2回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 7月　日本乳癌学会（大阪）
- 8月　マンモグラフィ工場見学 那須・鬼怒川研修会
- 9月　日本看護学会ー看護教育ー学術集会（新潟）
- 9月　日本糖尿病教育・看護学会（長良川国際会議場、他）
- 10月　日本看護学会　在宅看護(山形テレサ)
- 10月　日本看護学会　精神看護（キッセイ文化ホール）
- 10月　日本看護学会　急性期（パシフィコ横浜）
- 11月　日本乳癌検診学会（ベイシア文化ホール）
- 12月　第3回ピンクリボンアドバイザー認定試験
- 全国各地でピンクリボンバッジ運動を出展

■ピンクリボン友だちアクション
2013年12月の第1回認定試験を受けて、2014年2月に初のピンクリボンアドバイザー2,069名が誕生し、各地で活動をスタート。また、楽しく歌って踊りながら「自己検診」を啓発する、新しい参加型のツール『ピンクリボン体操 第1』を開発。人と人のつながりを大切にしながら乳がん検診を推進する「友だちアクション」により、乳がん検診啓発の輪が広がっている。

認定NPO法人乳房健康研究会　理事一覧

■理事長

福田 護
聖マリアンナ医科大学
ブレスト＆イメージング
センター院長

■副理事長

野末 悦子
介護老人保健施設
「樹の丘」施設長

島田 菜穂子
ピンクリボンブレストケ
アクリニック表参道
院長

竹田 寛
桑名市総合医療セン
ター理事長

■理事

阿部　恭子
千葉大学大学院看護
学研究科付属
看護実践研究指導セ
ンター特任准教授

遠藤 登喜子
東名古屋病院
乳腺科診療医長

大多和 まや
聖マリアンナ医科大学
ブレスト＆イメージング
センター

岡山 慶子
朝日エルグループ会長

■理事

小泉 美都枝
聖マリアンナ医科大学
川崎市立多摩病院画
像診断部
技術課長補佐

小林 茂樹
三重大学医学部　健診
センター
健診センター長

嶋森 好子
東京都看護協会
会長

鈴木 久美
大阪医科大学
看護学部教授

■理事

津川 浩一郎
聖マリアンナ医科大学
大学病院
乳腺･内分泌外科部長

土井 卓子
湘南記念病院かまくら
乳がんセンター
乳がんセンター長

中村　清吾
昭和大学医学部　乳腺
外科部門
主任教授

畠山 雅行
労働衛生コンサルタン
トオフィス畠山

■理事

山内 英子
聖路加国際病院
乳腺外科部長･
ブレストセンター長

髙木 富美子
認定NPO法人
乳房健康研究会
事務局

■監事

戸倉　輝彦

乳房健康研究会を支援するプログラム

乳がん検診を受ける、早期発見の大切さを伝える。ピンクリボン運動に企業・団体や個人が気軽に参加していただくために、受診率向上を目的としたさまざまな活動へのサポートプログラムを提案。主なプログラム5種類について、特徴や具体的な支援方法をまとめた。

ピンクリボン サポート プログラム

■ピンクリボンブレストケア募金
当会の年間を通じた活動全般を支援
〇支援方法：寄付金や募金箱・チャリティーオークションなどでの募金を寄付。

■ピンクリボンバッジによる寄付　＜ピンクリボンバッジ運動＞
ピンクリボンバッジによる早期発見啓発活動とピンクリボン運動への寄付を一体化
〇支援方法：500円以上の寄付につき、1つのピンクリボンバッジセットを贈呈。

■協賛
調査、イベントなど大規模な主催事業に対する協賛
〇支援方法：協力企業・団体へのお願い事項を確認のうえ、事務局にお問合せください。
事務局が企画内容と協賛メニューを提案。

■ピンクリボンパートナー
当会とともにピンクリボン運動による社会貢献を始めたい企業・団体が気軽に利用できる、1年更新のプログラム。
ピンクリボンパートナーとして登録いただくと、ピンクリボンマークやロゴマーク、啓発ツールなどをご提供。
【寄付額】 年間20万円以上の寄付、または35万円以上のピンクリボンバッジによる寄付
〇支援方法：協力企業・団体へのお願い事項を確認のうえ、ピンクリボンパートナー申込書を提出ください。

■タイアップ
企業・団体がピンクリボン運動による社会貢献を実現するためのタイアップ企画。企画段階からのオリジナルプログラム開発や企業・団体の提案企画の実施など。
【タイアップ例】
①啓発キャンペーン　女性顧客啓発のためのオリジナルツールの作成、当会啓発ツールの活用
②商品販売キャンペーン　ピンクリボン運動への協力を表示した商品の販売、売上金の一部を寄付
③応募キャンペーン　懸賞応募はがきなどの枚数に応じた寄付
④ポイント提供　顧客にポイントを加算、顧客がポイントを利用して当会に寄付
⑤イベント開催　チャリティイベント開催による寄付
⑥クリックキャンペーン　HP上に乳がん啓発ページを作成し、クリック数に応じて寄付
〇支援方法：協力企業・団体へのお願い事項を確認のうえ、事務局までお問合せください。

2015年　主な協賛・寄付・啓発ツール活用法人および団体（50音順）

Be魔女ｺﾞﾙﾌ会
JA共済連島根
JR北海道
maxima's
TAD三芳株式会社
ｱｼﾞﾚﾝﾄ･ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ株式会社
ｱｽｸﾙ株式会社
アフラック（ｱﾒﾘｶﾝﾌｧﾐﾘｰ生命保険会社）
ｱﾗｶﾞﾝ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社
一般社団法人 日本家族計画協会
一般財団法人神奈川県労働衛生福祉協会
ｴｰｻﾞｲ株式会社　協賛
ｷﾘﾝﾋﾞﾊﾞﾚｯｼﾞ
ｺｶｺｰﾗｲｰｽﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社
ｻﾗﾔ株式会社
ｼｰﾒﾝｽｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社
ｼﾞｪｸｽ株式会社
ｼｸﾞﾏｽﾀｯﾌ株式会社
ｼｸﾞﾏﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式会社
ｼﾁｽﾞﾝ電子株式会社
ｽｽﾞｷ記念病院
ｽﾘｰｴﾑ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社
ｽﾘｰｴﾑ･ジャパン株式会社 ヘルスケアカンパニー
ｾﾝﾁｭﾘｰ21株式会社
ｿﾗｰﾚﾎﾃﾙｽﾞｱﾝﾄﾞﾘｿﾞｰﾂ株式会社
ﾁｬｰﾙｽﾞ&ｷｰｽｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社
ﾅﾁｭﾗﾙ株式会社
ﾊｽｸﾊﾞｰﾅ･ｾﾞﾉｱ株式会社
ﾋﾟﾝｸﾘﾎﾞﾝﾌﾞﾚｽﾄｹｱｸﾘﾆｯｸ表参道
ﾎｸﾕｰﾒﾃﾞｨｯｸｽ株式会社
ﾑｰﾝｽﾀｰ 協賛金
有限会社ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ･ｽﾎﾟｰﾂ･ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ
ﾘｺｰﾘｰｽ株式会社
医療法人健仁会 益子病院
一般財団法人ﾐｭｾﾞ財団
一般財団法人京浜保健衛生協会
一般財団法人健康医学協会
一般財団法人神奈川県労働衛生福祉協会
一般社団法人日本ｴｽﾃｨｯｸ協会
一般社団法人日本ｼﾞｭｴﾘｰ協会
一般社団法人日本健康倶楽部
宇治武田病院
家田化学薬品株式会社
花王株式会社
楽習ﾌｫｰﾗﾑ/株式会社 ｵｰﾙｱﾊﾞｳﾄﾗｲﾌﾜｰｸｽ
株式会社 ｱｰﾄﾈｲﾁｬｰ
株式会社 ｱｽｶｼﾞｬﾊﾟﾝ
株式会社 ｶﾈﾎﾞｳ化粧品
株式会社 ｶﾌｪﾘﾝｸﾞ
株式会社 からだにいいこと
株式会社 ｸﾛｽｶﾝﾊﾟﾆｰ
株式会社 ｺｰﾌﾟﾈｯﾄ保険ｾﾝﾀｰ
株式会社 ｺﾔﾏﾄﾞﾗｲﾋﾞﾝｸﾞｽｸｰﾙ
株式会社 ｼﾞｬﾊﾟﾝﾋﾞﾊﾞﾚｯｼﾞﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ
株式会社 ｼﾞﾝｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ
株式会社 ﾃﾞｨｱﾃｯｸ
株式会社 ﾄﾐｰｽﾞｽﾀｰ
株式会社 ﾅﾁｭﾗﾋﾟｭﾘﾌｧｲ研究所
株式会社 ﾇｰｳﾞ･ｴｲ
株式会社 ﾊｰﾏﾝ
株式会社 ﾒﾃﾞｨｺﾝ
株式会社 ﾕﾅｲﾃｯﾄﾞｱﾛｰｽﾞ
株式会社 ﾗｲｽﾞ
株式会社 ﾘﾍﾞﾙﾀ
株式会社 ﾙｯｸ
株式会社 ﾚｵﾊﾟﾚｽ･ﾘｰｼﾝｸﾞ
株式会社 ﾜｺｰﾙﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ
株式会社 ﾜｯﾄﾏﾝ
株式会社 丸三屋
株式会社 三越伊勢丹
株式会社 社会保険出版社
株式会社 千趣会
株式会社 大丸松坂屋百貨店
株式会社 大京
株式会社 中北製作所
株式会社 東京堂
株式会社 桃谷順天館
株式会社 日本ﾎｰﾙﾏｰｸ
株式会社 良品計画
刈谷市健康課
共栄火災海上保険株式会社
国保日高総合病院
佐藤食品工業株式会社
松山赤十字病院
杉戸浴場
川辺株式会社
中外製薬株式会社
中部ｶﾞｽ不動産株式会社
中野区役所
東京ｺｶｺｰﾗﾎﾞﾄﾘﾝｸﾞ株式会社
東芝ﾒﾃﾞｨｶﾙｼｽﾃﾑｽﾞ株式会社
東和印刷株式会社
日鉄住金ﾋﾞｼﾞﾈｽｻｰﾋﾞｽ八幡株式会社
日本ｺｶｺｰﾗ 協賛金
日本郵船株式会社
富国生命保険相互会社
富士ﾌｨﾙﾑﾒﾃﾞｨｶﾙ株式会社
富松ﾚﾃﾞｨｰｽｸﾘﾆｯｸ
別海町役場
北群馬信用金庫
墨田区
鳴海製陶株式会社
有限会社 花花

他多数

発行：認定特定非営利活動法人 乳房健康研究会　　発行日：2016年4月
事務局：〒104-0045　東京都中央区築地2-14-6　LXS築地1203　TEL：03－6278－8720　FAX：03－3545－6545